

令和 4 年 6 月 24 日現在

機関番号：36101

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2020～2021

課題番号：20K22002

研究課題名(和文) 中世絵巻にみる和歌と絵画の相関関係 浄土系高僧伝の詞書の検討を通じて

研究課題名(英文) Correlation Between Waka Poems And Paintings -Through Consideration of Lyrics of Biography of high-ranking priest of Pure Land Buddhism

研究代表者

石井 悠加 (Ishii, Yuka)

四国大学・文学部・助教

研究者番号：10881518

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、中世絵巻の詠歌場面に着目し、絵画と詞書の間新たな解釈が生成されていく機構を明らかにすることを目的として、時宗の歴代遊行上人の行状絵巻、遊行上人の和歌、西行物語伝絵巻諸本について検討を加えた。この検討により、『一遍聖絵』『遊行上人縁起絵』という二つの時宗絵巻から、中世時衆が早期から西行物語伝絵巻を受容していたことの傍証を見出すことができた。また、そこで東国の旅に注目して成果を見出した経験から、絵巻全体の詠歌場面へと視野を広げることで、信濃・京・西国での旅における詠歌場面の意義の解明へと発展させることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の当初の目的は、絵巻という従来の和歌研究では周辺のと見做された領域へ和歌研究の領域を広げることにあつた。和歌研究の分野での絵巻へのアプローチといえば、三十六歌仙絵巻や伊勢物語絵巻など、和歌文学を題材とした絵巻についての研究が想定される。しかし本研究では、浄土系の祖師伝絵巻のうち、『西行物語絵巻』制作と関わりの深い中世時衆の制作した絵巻群に着目した。中世時衆が文学・宗教を結びつけた様相について検証を行い、隣接分野への学際的影響をもたらすことを試みた点に本研究の学術的意義がある。

研究成果の概要(英文)：In this study, I focus on the poetry scenes of medieval picture scrolls, and aim to clarify the mechanism by which new interpretations are generated between poems and paintings. For this purpose, I examined the Ji sect poems and illustrated narrative scrolls, and Saigyō Monogatari picture scrolls. I find evidence that the medieval Ji sect followers had accepted the Saigyō Monogatari picture scroll from an early stage by examining the two Ji sect picture scrolls, "Ippen hijiri-e" and "Yugyo shonin engi-e".

In addition, from the experience of finding results by paying attention to their trips to the eastern district, by expanding the horizons to the poetry scenes of the entire picture scroll, I clarify the significance of the poetry scenes in the trip to Shinano area, the metropolitan area, and the western district.

研究分野：中世文学

キーワード：一遍聖絵 遊行上人縁起絵 西行 絵巻 和歌 白河関 浅間山 承久の政変

## 1. 研究開始当初の背景

平安末期に生きた歌僧、西行(1118-1190)は、『新古今和歌集』の最多入集歌人である。西行は実在の歌人として後世に名を残した。またそれだけでなく、旅と信仰と和歌によって結ばれた虚構の人物像としての西行は、後の日本文学・文化に大きな影響を与えた。早くも鎌倉中期には、西行を主人公とする絵巻などが生まれ、広まっていたことが確認されている。それらの、歌人西行の著名歌と、虚実相交じる逸話で構成された絵巻群は、『西行物語絵巻』と総称されている。

その『西行物語絵巻』の生成と流布に関与したと目されているのが、一遍智真(1239-1289)を宗祖、他阿真教(1237-1319)を二祖とする、13世紀末から活動した「時衆」(後の時宗)と呼ばれる一団である。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、中世和歌の表現と絵画の表現との間に新たな解釈が生成されていく機構を明らかにすることである。そのために西行という遁世の歌人像に仮託された旅の物語絵巻の分析と、時宗の歴代遊行上人の行状絵巻の分析を行い、時衆がどのようにそれらを生成・享受していったのか、影響関係などについて、具体的な様相を分析することを目指したものである。

## 3. 研究の方法

調査対象は、『西行物語伝絵巻』諸本、時宗の歴代遊行上人の行状を描いた絵巻、西行の和歌・時宗の歴代遊行上人の和歌の三つである。

これらについて、次の三つの方法によって研究を行った。

### (1) 『西行物語絵巻』の分析

『西行物語絵巻』には絵が現存しているもの(「絵巻」と絵巻の本文のみが伝存するもの(「絵詞」)が存在する。また「絵巻」と「絵詞」にはさまざまな伝本があり、それらはすでに研究者によっていくつかの系統に分類されている。その各系統の「絵巻」と「絵詞」の主要な諸本について、主人公西行が和歌を詠む場面の本文(詞書)と絵画の中に描かれているもの(モチーフ)を整理して、その表現の分析と典拠の調査を行った。その上で、『西行物語絵巻』諸本と時宗絵巻の各作品との影響関係について考察した。

### (2) 時宗絵巻の分析

時宗絵巻と『西行物語絵巻』やその他の和歌文学との関わりを考察するため、時宗絵巻の諸本を整理し、各作品の検討を行った。

まず、『一遍聖絵』(清浄光寺ほか蔵)の主人公の宗祖一遍智真が遊行の旅の中で和歌を詠む場面に注目し、『西行物語絵巻』諸本の西行の旅の詠歌場面と具体的に比較することで、なぜ『一遍聖絵』が詠歌場面を設けたのかという根本的な問いを行い、『西行物語絵巻』生成過程での時衆の関わりなどの具体的な証左の獲得を求めた。

そして、一遍智真と二祖他阿真教の二人を主人公とする『遊行上人縁起絵』諸本の詠歌場面について、『一遍聖絵』詠歌場面との比較を行った。また、『遊行上人縁起絵』と『一遍聖絵』の旅程を図示した地図と年表を作成し、それらに収められた和歌を抄出して、『他阿上人集』などの和歌集と併せた一覧表を作成した。

### (3) 西行の和歌と一遍・他阿真教の和歌の影響関係の考察

時宗絵巻や家集が収める一遍や真教の和歌は、西行の和歌に影響を受けている。しかしまた両者の和歌も『西行物語絵巻』の主人公としての西行の詠歌場面への生成に影響を及ぼしたものではないか。あるいは、それぞれよりもさらに遡る典拠があるのではないか。このような仮説から、各絵巻作品の修辞表現の分析を行った。

## 4. 研究成果

令和2年春以降、新型コロナウイルス感染拡大の防止対策として県外出張等の移動の制限、図書館や研究機関の利用停止などが続き、当初予定していた資料・作品の所蔵先への調査訪問などは実行できなかった。しかし本支援によって購入した文学・歴史・美術関連図書や、ILL(図書館間相互利用)サービスによって取り寄せるなどした文献が、時宗絵巻である『一遍聖絵』『遊行上人縁起絵』と、旅の歌僧西行を主人公とした物語絵巻である『西行物語絵巻』の予想以上に密接な関わりに気づかせてくれた。

本研究の現在の成果は以下の通りである。

### (1) 『西行物語絵巻』の分析

『西行物語絵巻』諸伝本のうち、時衆との関わりを考える上で重要な伝本が明らかになった。

西行物語・西行物語絵巻についてはこれまでに、山口眞琴氏が『西行説話文学論』第二部三章「『西行物語』の構造的再編と時衆」(笠間書院、平成21年、初出平成4年)で、永正六年写本『西行物語』が、「阿弥陀信仰の専一的な強化」により『西行物語』全体を再編したもので、時衆の僧「弥阿弥陀仏」の奥書を持つなどの点に注目し、「西行伝を表現回路として祖師一遍の伝記を問い直す時衆の営為」を明らかにされている。また、礪波美和子氏は「『西行物語』諸本について」(『人間文化研究科年報』11号、平成8年3月)において、西行物語諸本の広範な整理・緻密な検証を行い、一遍・他阿真教の詠歌表現に類似した和歌を西行詠として収載する『西行物語』伝本の存在を明らかにされている。

さて、これらの伝本に加えて重要と考えられるのが、室町初中期の成立と推定されている、「旧久保家本」と称される『西行物語絵巻』(全三巻、紙本著色、久保家旧蔵、サントリー美術館蔵)である。

『西行物語絵巻』には、西行が白河の関を通過する際に「白河の関屋を月のもるからに人の心をとむるなりけり」(山家集・1126番歌)という和歌を詠む場面を詞書中に含む伝本系統が多い。ところがその絵画化については、画像等の形で今回入手することができた諸本を確認した限りは、この白河の関での詠歌場面を絵画化したものはほとんどなかった。

しかし、この「旧久保家本」は、白河の関での詠歌場面を絵画化しており、しかもその図様は『遊行上人縁起絵』における一遍・他阿の詠歌場面との共通性が極めて高い。それだけでなく、白河の関通過の前後の場面においても、絵画・詞書の両面に共通性が見られることが判明した。

## (2) 時宗絵巻の分析

『一遍聖絵』ならびに『遊行上人縁起絵』所収歌を一覧表にしたことにより、この二つの絵巻の中に散見される、同一の和歌の詠歌状況を全く異なるものとして描いた場面について整理し、ここから絵巻制作を指示した制作者たちの意図を考えるための手がかりとすることができた。

また、『一遍聖絵』が描く一遍の旅の過程と詠歌場所を地図上において確認したことで、この絵巻が取り入れた一遍の和歌の中には、浅間山の噴火や承久の乱、都の洪水などの記憶を浮かび上がらせるものがあることを指摘することができた。

## (3) 西行の和歌と一遍・他阿真教の和歌の影響関係の考察

時宗絵巻や家集が収める一遍や真教の和歌については、いずれも西行和歌や西行伝承を意識しており、またそれぞれが異なる源泉から西行像を汲み取っていることが明らかになった。

しかし、時宗の和歌から西行物語絵巻への影響については、いくつかその存在の可能性は得られたものの、決定的な確証はまだ得られていない。今後も現在着手している時宗の文芸活動について調査し、その作品の内部検証を継続していく必要がある。

以上の研究結果を、学会発表1件と研究論文2件にまとめている。

令和3年9月の西行学会でのオンライン発表の内容に基づいた論文「西行伝絵巻と時宗『一遍聖絵』『遊行上人縁起絵』東国遊行の場面について」(令和4年9月『西行学』第13号掲載予定)では、白河関での西行と一遍の詠歌場面とその前後の東国の旅の場面の類似性にはじまり、詠歌内容や画面の描写の特徴から二つの時宗絵巻の意図を探り、中世時衆が早期から西行伝絵巻を受容していたことの傍証とすることができた。

西行・一遍・他阿真教の東国への旅に注目して成果を見出したことから、次の「『一遍聖絵』の和歌「旅の実景として」(令和4年6月『四国大学紀要』第58号掲載予定)では、絵巻全体の詠歌場面へと視野を広げることで、信濃・京・西国での旅における詠歌場面の意義の解明へと発展させることができた。この論文では、詠歌表現と詠出場所・日時に注目することで、『一遍聖絵』の一遍詠の中のこれまで顧みられる機会が少なかった箇所から、『伊勢物語』の東下りにおいて詠まれた浅間山の煙や、河野氏にとって重要な「承久の政変」の記憶を持つ隠岐島などの、遊行の道中で一遍が目前に捉えた光景の記憶をすくい上げることができた。

教義に関わらない和歌や絵画化されていない詠歌は、高僧伝絵巻においては従来存在が軽視されがちであった。しかし高僧伝絵巻を和歌の伝統の文脈の中で再解釈することで、新たな発見が生まれることがある。絵巻における和歌の重要性を提示できたことは本研究の最も大きな意義であり、引き続き今後の課題としていきたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 石井悠加	4. 巻 13
2. 論文標題 西行伝絵巻と時宗 『一遍聖絵』 『遊行上人縁起絵』 東国遊行の場面について	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 西行学	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井悠加	4. 巻 58
2. 論文標題 『一遍聖絵』の和歌 旅の実景として	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 四国大学紀要	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 石井悠加
2. 発表標題 西行物語絵巻と時宗 『一遍聖絵』 『遊行上人縁起絵』 東国遊行の場面について
3. 学会等名 第12回西行学会大会
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------